



都市計画道路横浜藤沢線川名工区 環境調査結果報告会

平成26年3月
神奈川県 藤沢土木事務所

環境調査結果報告会の開催経緯について（1）

<これまでに実施した地元説明会・話し合い>

開催回	年月日	地区	説明会、疑問・質問に答える会名
第1回	H21.4.25	新屋敷	藤沢都市計画道路3・3・2横浜藤沢線(新屋敷地区)説明会
第2回	H21.6.20	片瀬山	都市計画道路横浜藤沢線計画に対する疑問・質問に答える会
第3回	H22.3.20	川名	都市計画道路藤沢線計画に関する説明会
第4回	H23.5.21	新屋敷	都市計画道路藤沢線計画に関する説明会



周辺環境への影響の懸念

環境調査結果報告会の開催経緯について（2）

【住民説明会】 4回開催 | H21.4~H23.5

↓
ご意見

【環境調査の実施】
大気質・騒音等の
調査 | H23.2
~H25.3

→ 報告
← 助言等

【川名緑地環境
影響評価検討
委員会の開催】
5回開催 | H22.12
~
H25.8

↓
報告書の公表 | H25.12

↓
【今回の報告会】

↓
結果の報告

年月日	地区	説明会名
H26.3.1	川名	川名地区環境調査結果報告会
H26.3.2	新屋敷	
H26.3.9	片瀬山	

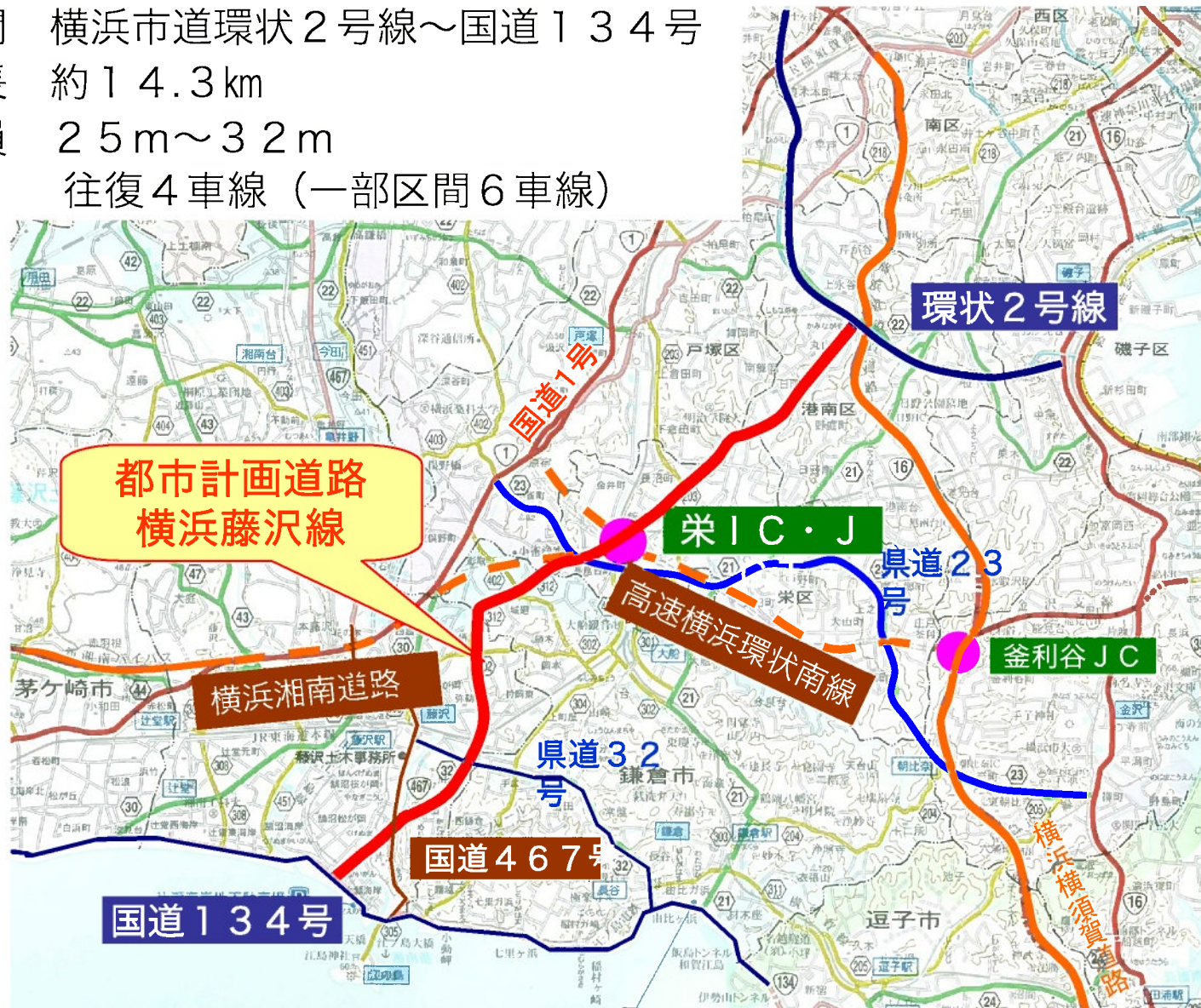
報告会の構成

- 1 横浜藤沢線の概要
- 2 検討委員会の概要
- 3 環境調査結果報告

1 横浜藤沢線の概要

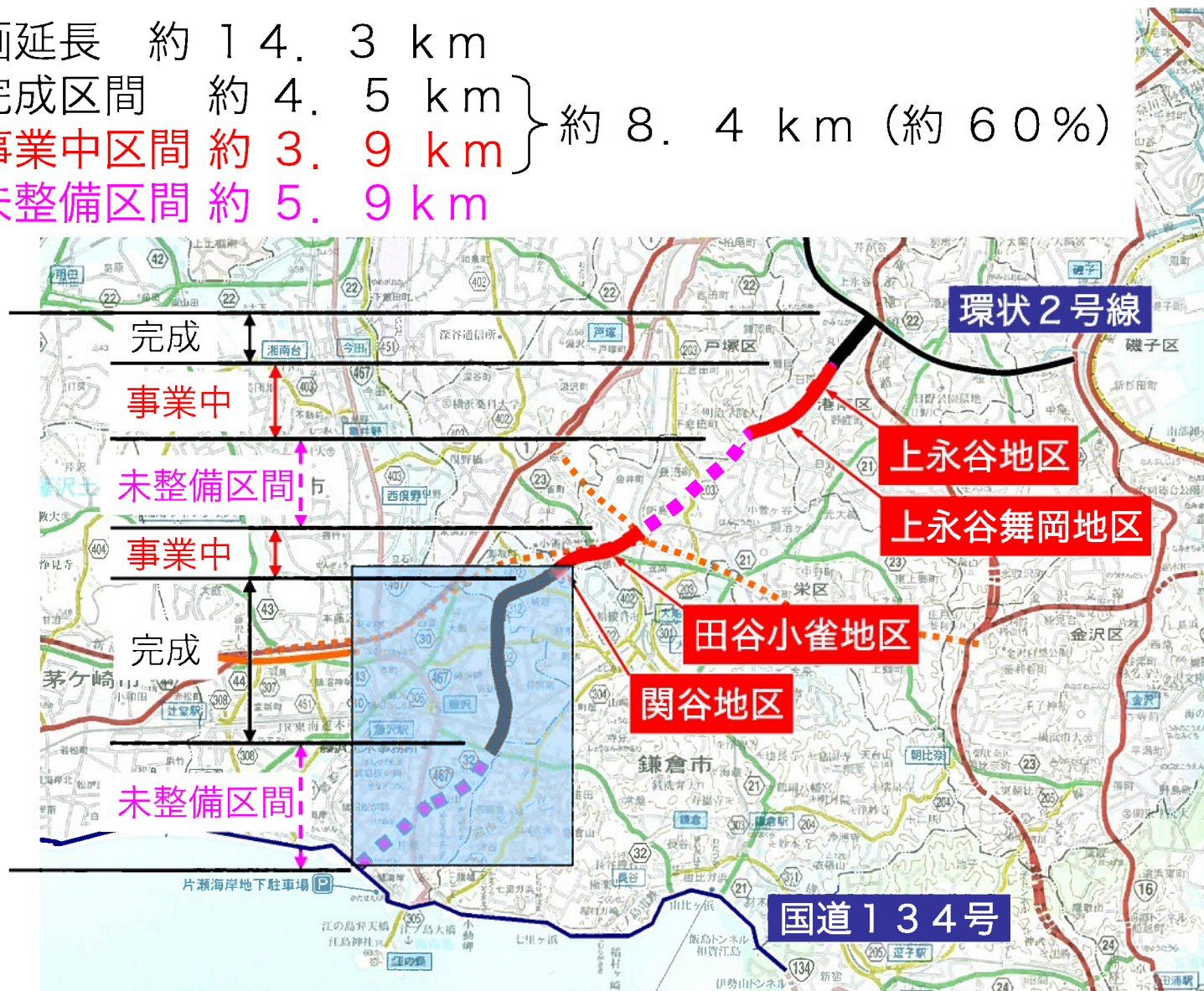
横浜藤沢線の概要 (1) : 通過位置等

- 区間 横浜市道環状2号線～国道134号
- 延長 約14.3km
- 幅員 25m～32m
往復4車線 (一部区間6車線)

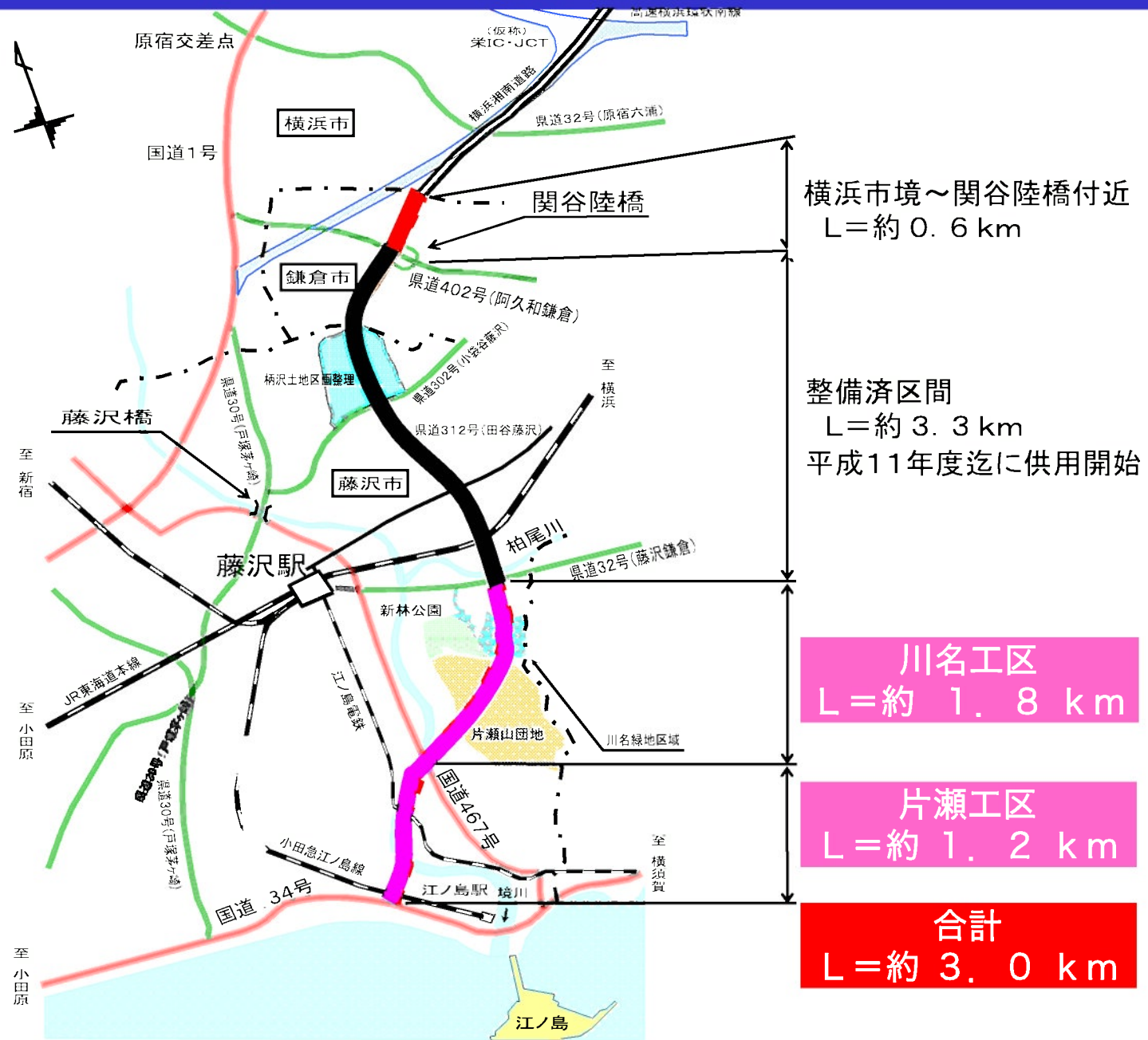


横浜藤沢線の概要 (2) : 現在の取組状況

- 計画延長 約 14.3 km
 - ・ 完成区間 約 4.5 km
 - ・ 事業中区間 約 3.9 km
 - ・ 未整備区間 約 5.9 km
- 約 8.4 km (約 60%)



横浜藤沢線の概要 (3) : 藤沢市・鎌倉市内の状況



2 検討委員会の概要

検討委員会の概要（1）

●検討委員会名称

都市計画道路横浜藤沢線 川名緑地環境影響評価検討委員会

●目的

都市計画道路横浜藤沢線の整備に伴う川名緑地の動植物等自然環境への影響及び保全対策について技術的な検討を行うこと

●検討事項

- 1.道路の構造をトンネルとした場合の川名緑地の動植物等自然環境への影響に関する技術的検討及び評価に関すること
- 2.道路の整備にあたり自然環境への影響を極力小さくするための対策に関すること
- 3.その他、委員会の目的を達成するため必要な事項

●委員

木平委員長、勝野委員等の学識経験者3名と、行政2名の計5名

検討委員会の概要（2）

●開催日（開催回数は5回）

開催回	開催日	主な議題
第1回	H22.12.18	・ 自然環境に係る現地調査方法の検討
第2回	H23.3.23	・ 動植物調査の中間報告 ・ 地下水状況把握のための調査方法の検討
第3回	H24.3.23	・ 動植物調査の中間報告 ・ 地下水調査の中間報告
第4回	H25.1.25	・ 動植物調査の総括報告 ・ 地下水・表流水調査の中間報告 ・ 評価案及び保全対策案の検討
第5回	H25.8.20	・ 動植物及び地下水・表流水調査の総括 ・ 評価案及び保全対策案の総括
—	H25.12	・ 報告書の公表

3 環境調査結果報告

環境調査項目

事業影響を把握するために、類似事例を参考とした上で、事業特性や地域特性を勘案し、以下の項目の調査を行いました。

調査項目	対象地区	環境調査実施時期
大気質	新屋敷地区	H24.3～H24.12
	川名地区	H23.2～H23.11
騒音	新屋敷地区	H24.12
	川名地区	H23.2
振動	新屋敷地区	H24.12
	川名地区	H23.2
動物・植物	川名緑地周辺	H23.6～H24.7
地下水・表流水		H24.3～H25.3
地質		H24.2～H24.3

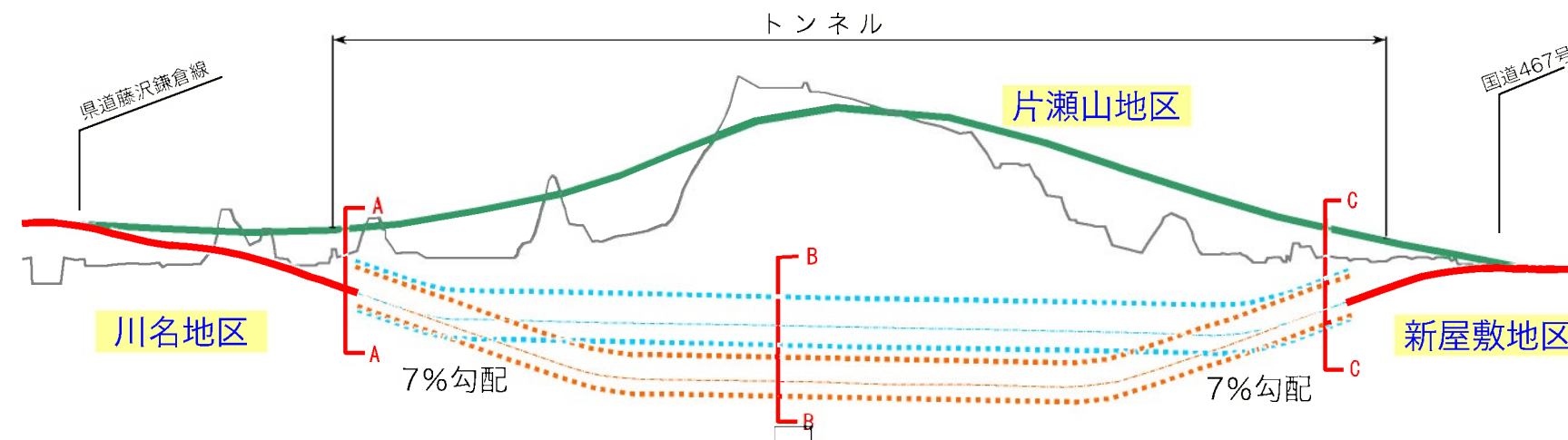
調査・予測条件等

道路計画（平面図）

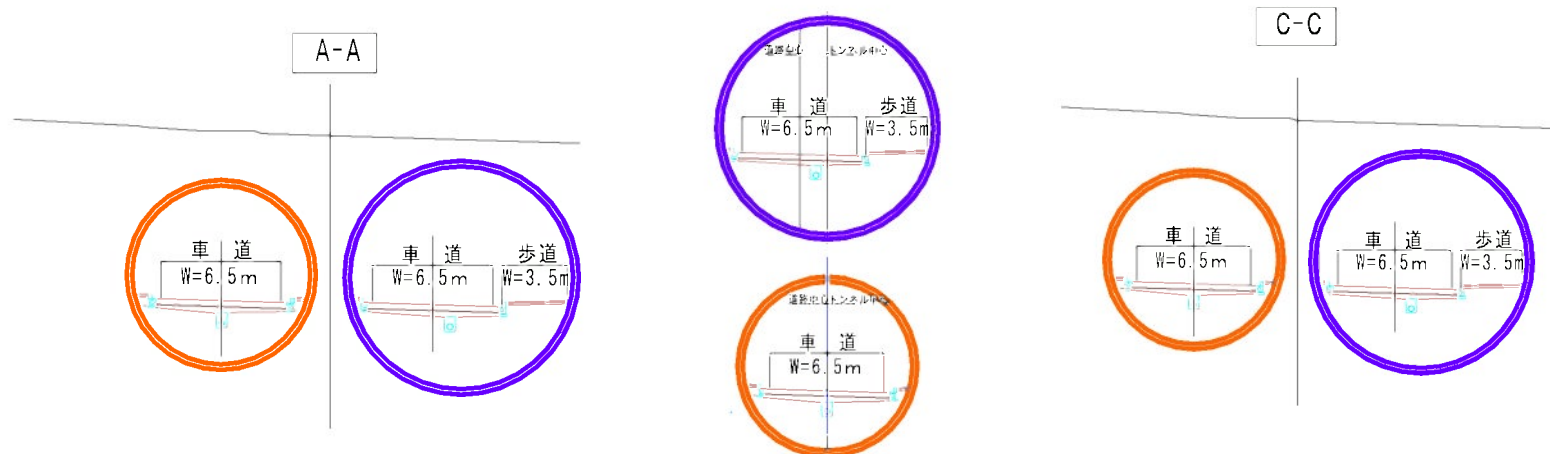


道路計画（縦断図）

検討縦断図



断面図



※道路構造については、検討中であり、確定したものではありません。3

大氣質

大気質現地調査方法及び位置図

調査項目及び測定方法

調査項目	測定方法
二酸化窒素 (NO ₂)	「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年環境庁告示第38号)に定める測定方法：化学発光法(JIS B 7953:2004)
浮遊粒子状物質 (SPM)	「大気の汚染に係る環境基準について」(昭和48年環境庁告示第25号)に定める測定方法：β線吸収法(JIS B 7954:2001)
風向・風速	「地上気象観測指針」(平成14年7月、気象庁)に準拠した方法



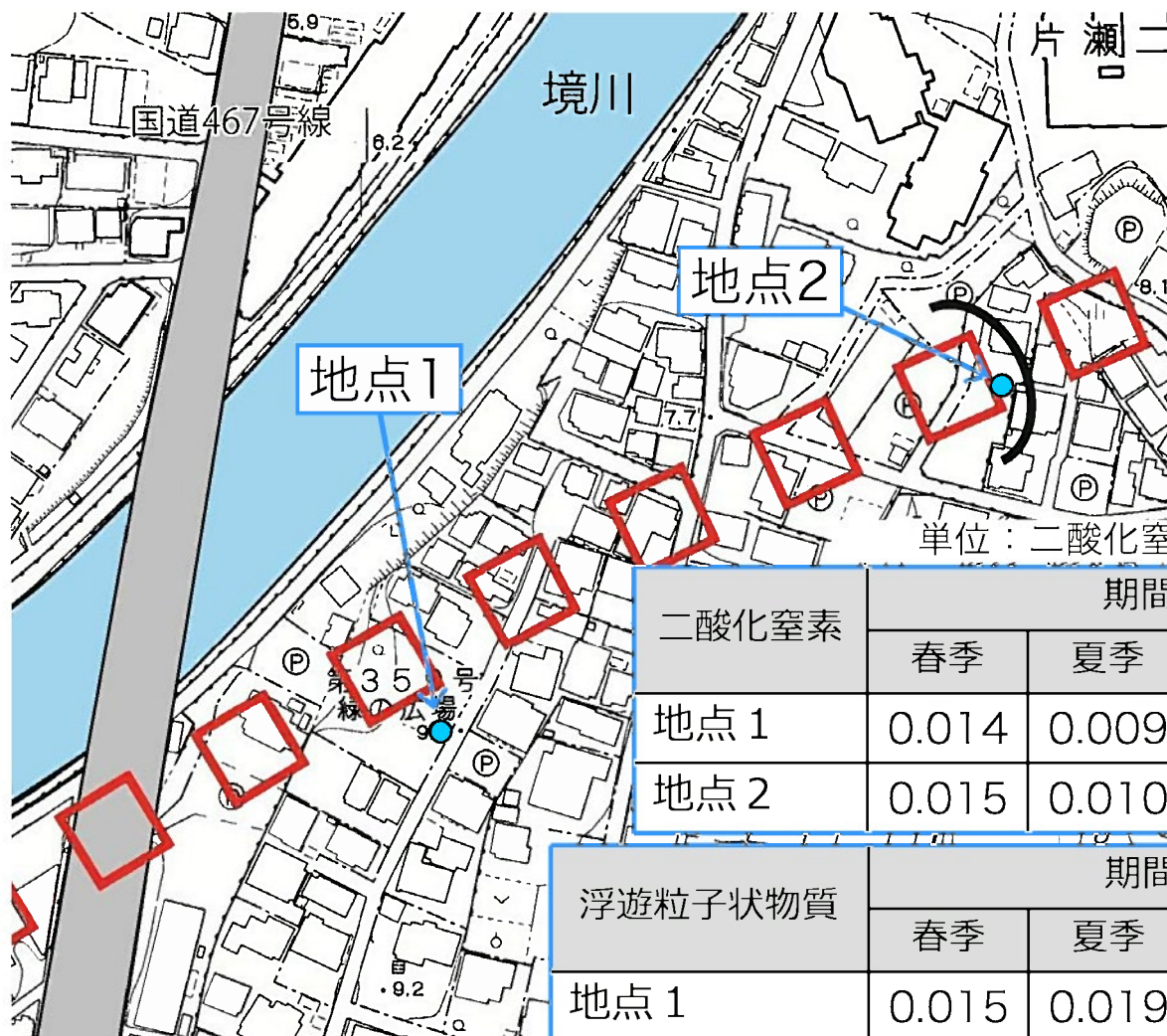
調査地点位置

新屋敷地区

川名地区

大気質現地調査結果【新屋敷地区】

- すべての調査地点で環境基準※を下回っていました。



二酸化窒素	期間平均値				環境基準※
	春季	夏季	秋季	冬季	
地点1	0.014	0.009	0.008	0.020	0.06
地点2	0.015	0.010	0.007	0.016	

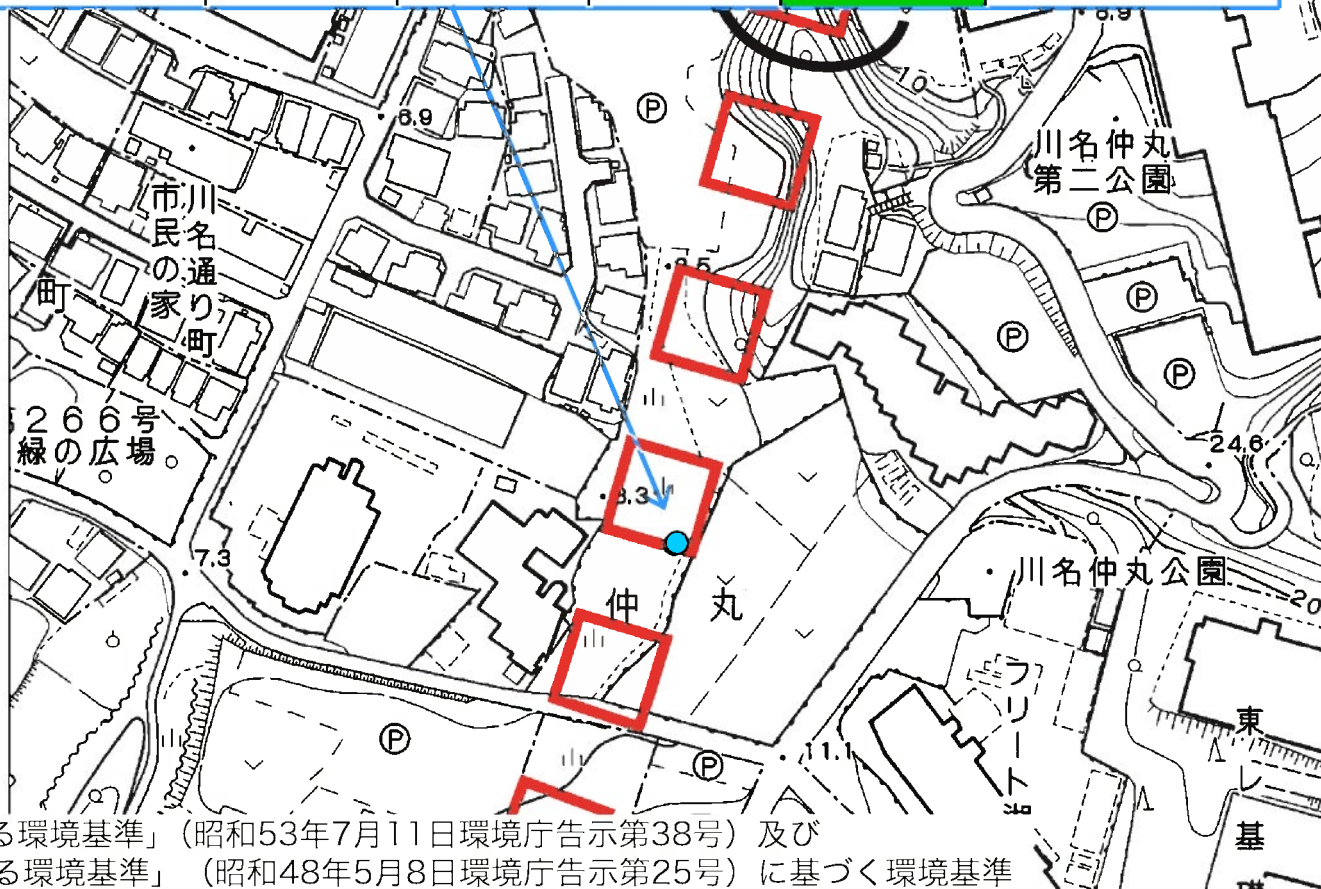
浮遊粒子状物質	期間平均値				環境基準※
	春季	夏季	秋季	冬季	
地点1	0.015	0.019	0.025	0.008	0.10
地点2	0.016	0.016	0.023	0.010	

※「二酸化窒素に係る環境基準」（昭和53年7月11日環境庁告示第38号）及び「大気の汚染に係る環境基準」（昭和48年5月8日環境庁告示第25号）に基づく環境基準 19

大気質現地調査結果【川名地区】

- すべての調査地点で環境基準※を下回っていました。

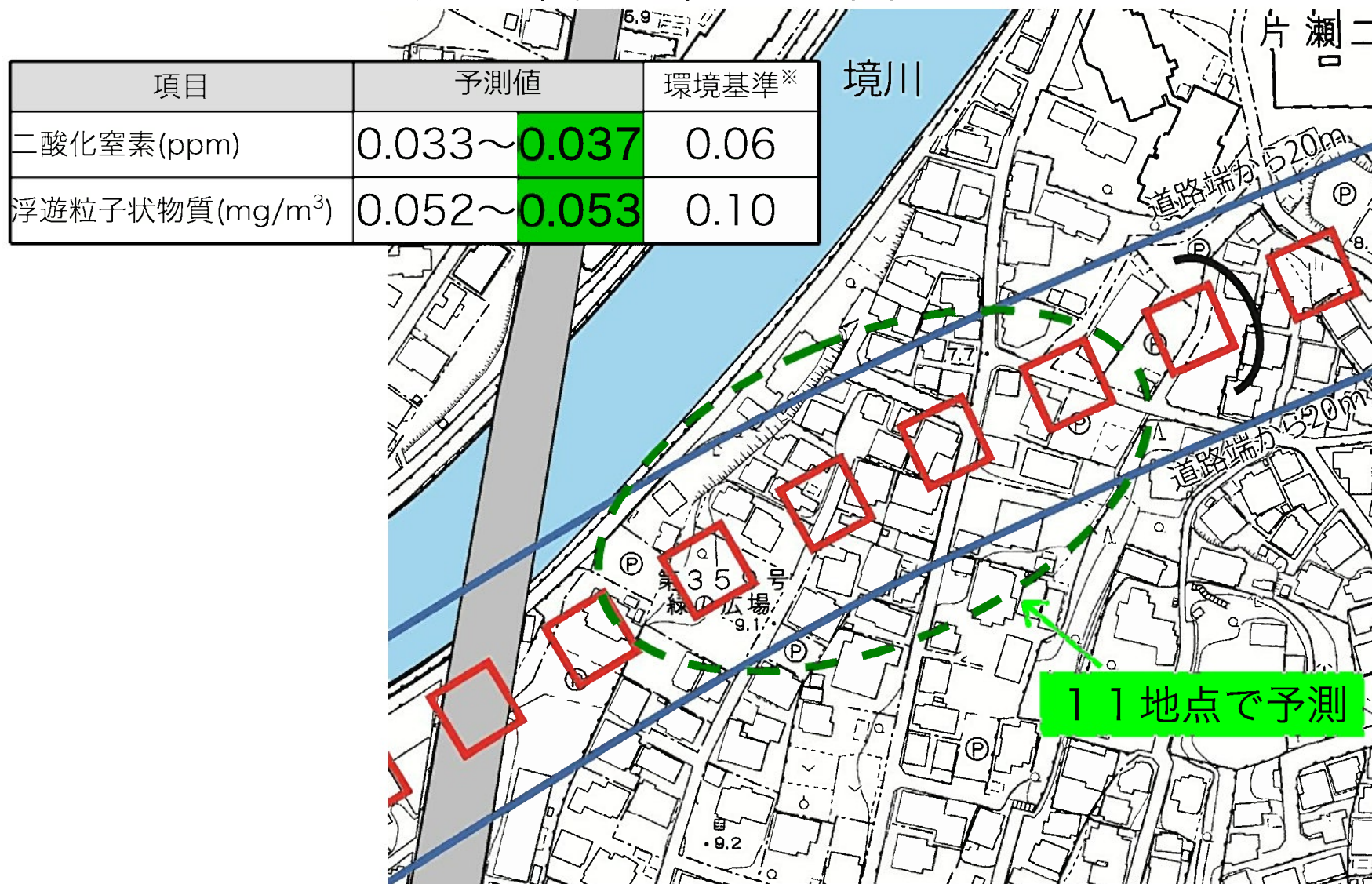
A-1	期間平均値				環境基準※
	春季	夏季	秋季	冬季	
二酸化窒素(ppm)	0.006	0.012	0.024	0.030	0.06
浮遊粒子状物質(mg/m ³)	0.031	0.023	0.026	0.039	0.10



※「二酸化窒素に係る環境基準」(昭和53年7月11日環境庁告示第38号)及び「大気の汚染に係る環境基準」(昭和48年5月8日環境庁告示第25号)に基づく環境基準

大気質予測結果【新屋敷地区】

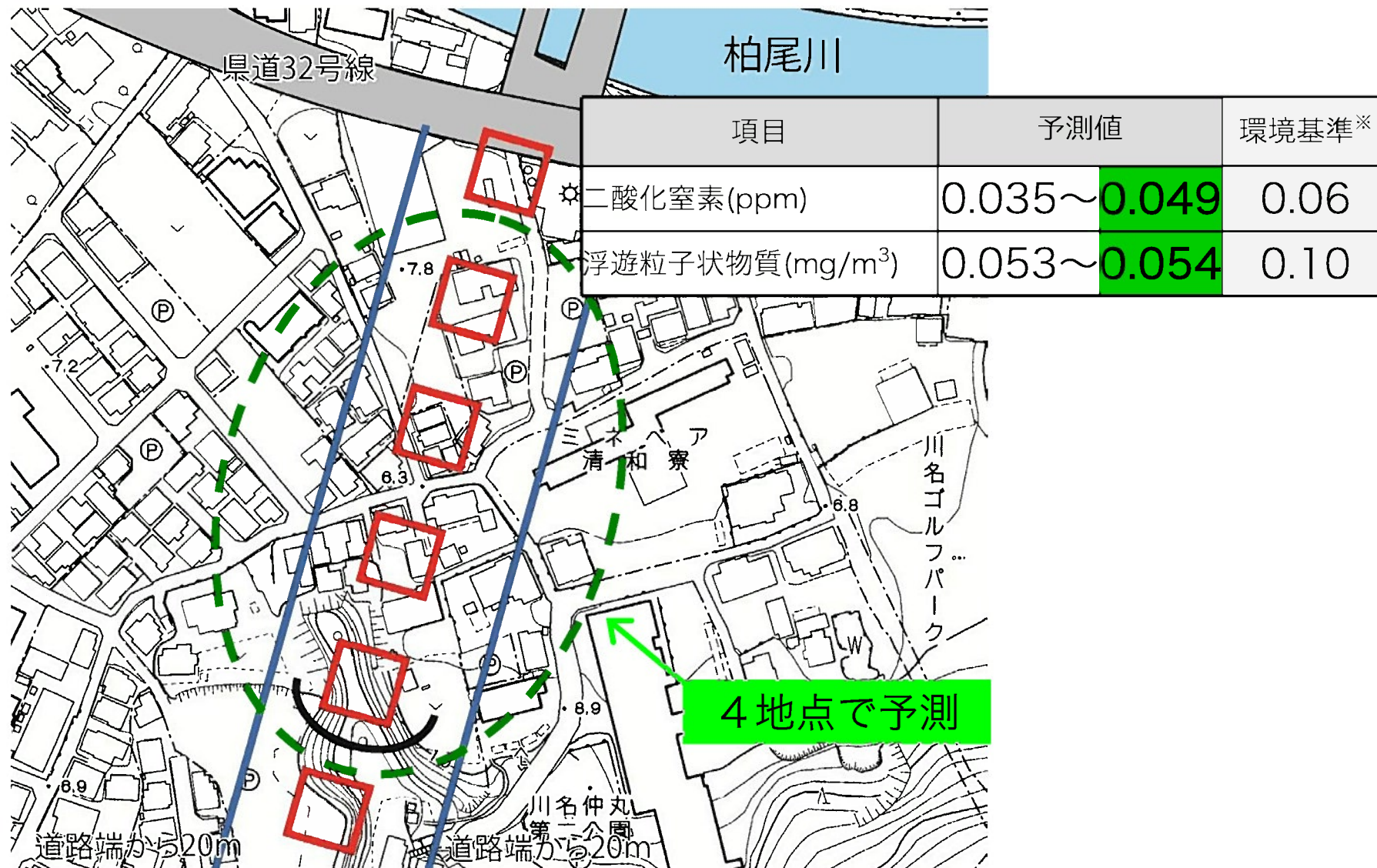
- すべての地点で環境基準※を下回りました。



※「二酸化窒素に係る環境基準」（昭和53年7月11日環境庁告示第38号）及び「大気の汚染に係る環境基準」（昭和48年5月8日環境庁告示第25号）に基づく環境基準

大気質予測結果【川名地区】

- すべての地点で環境基準※を下回りました。



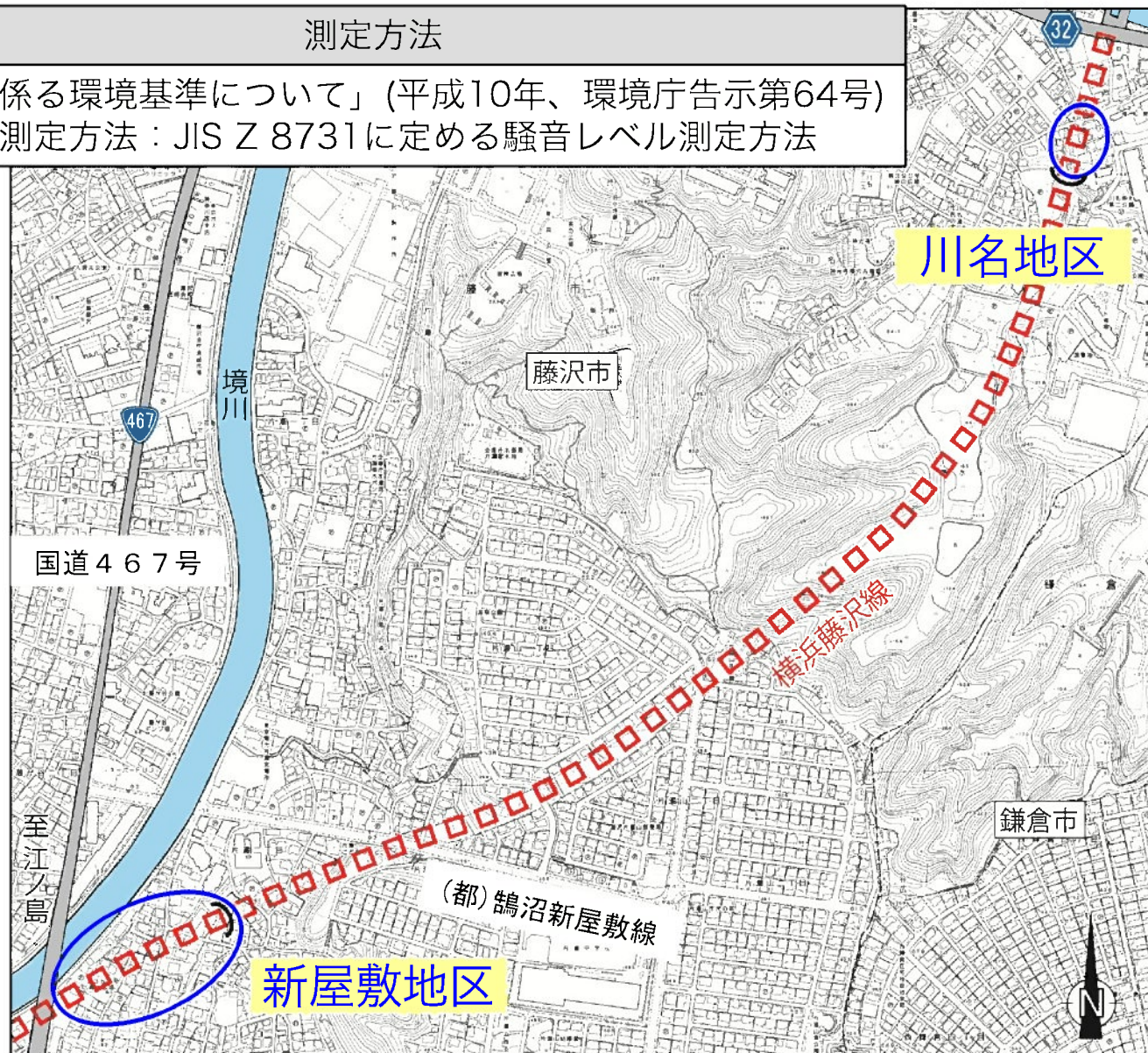
※「二酸化窒素に係る環境基準」(昭和53年7月11日環境庁告示第38号)及び
 「大気の汚染に係る環境基準」(昭和48年5月8日環境庁告示第25号)に基づく環境基準

騷音

騒音現地調査方法及び位置図

調査項目及び測定方法

調査項目	測定方法
騒音レベル	「騒音に係る環境基準について」(平成10年、環境庁告示第64号)に定める測定方法：JIS Z 8731に定める騒音レベル測定方法



騒音において用いる環境基準

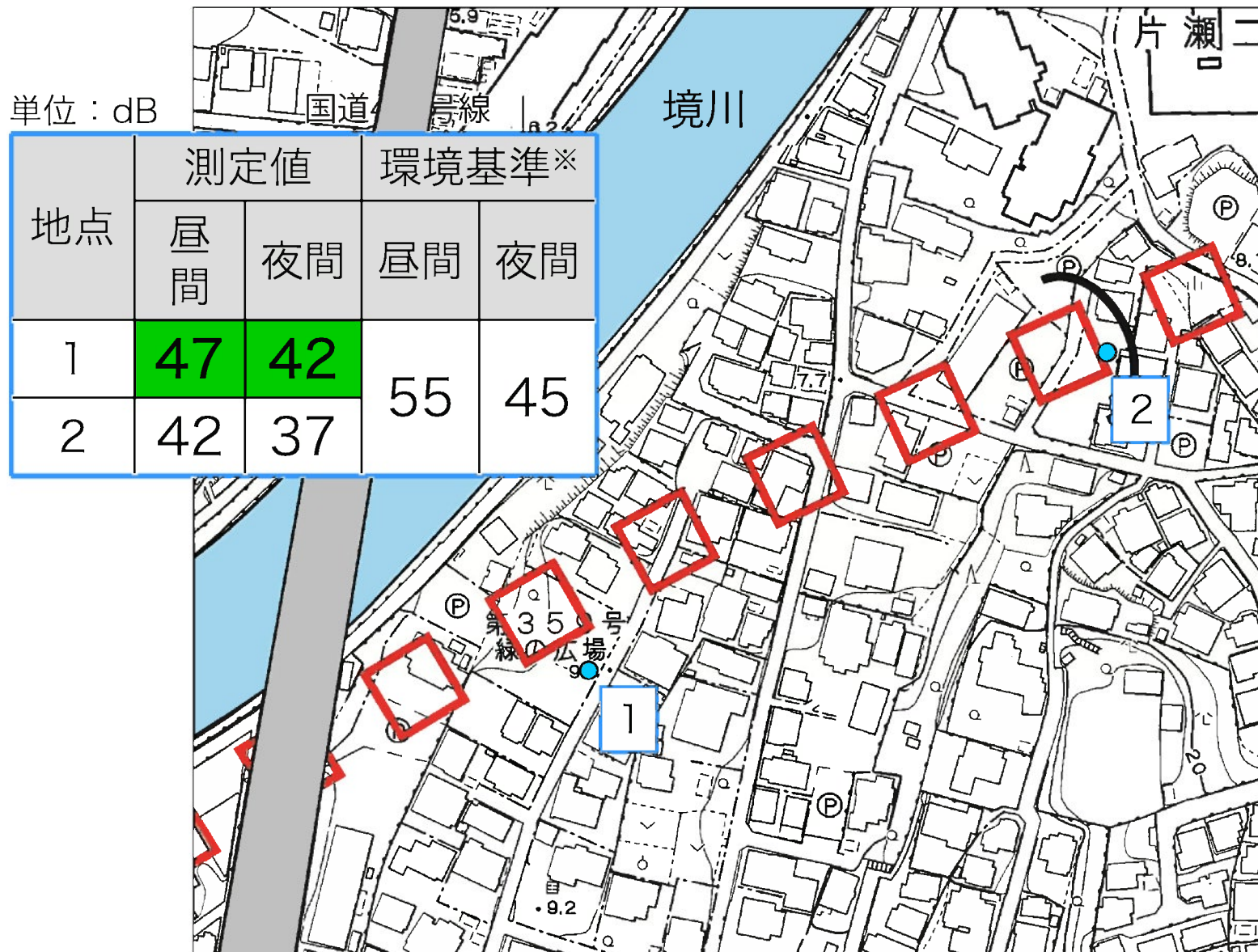
「騒音に係る環境基準」（平成10年9月30日環境庁告示第64号）に基づいて、基準値を設定しました。

対象地域	基準値	
	昼間	夜間
幹線道路に近接する空間（道路端から20mの地域）	70dB以下	65dB以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域（道路端から20～50mの地域）	65dB以下	60dB以下
A地域のうち、2車線以上の車線を有する道路に面する地域（道路端から20～50mの地域）	60dB以下	55dB以下
A地域及びB地域のうち、道路に面しない地域	55dB以下	45dB以下

地域類型	該当地域
AA	該当なし
A	第一種及び第二種低層住居専用地域、及び第二種中高層住居専用地域
B	第一種及び第二種住居地域、準住居地域、その他の地域
C	近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域

騒音現地調査結果【新屋敷地区】

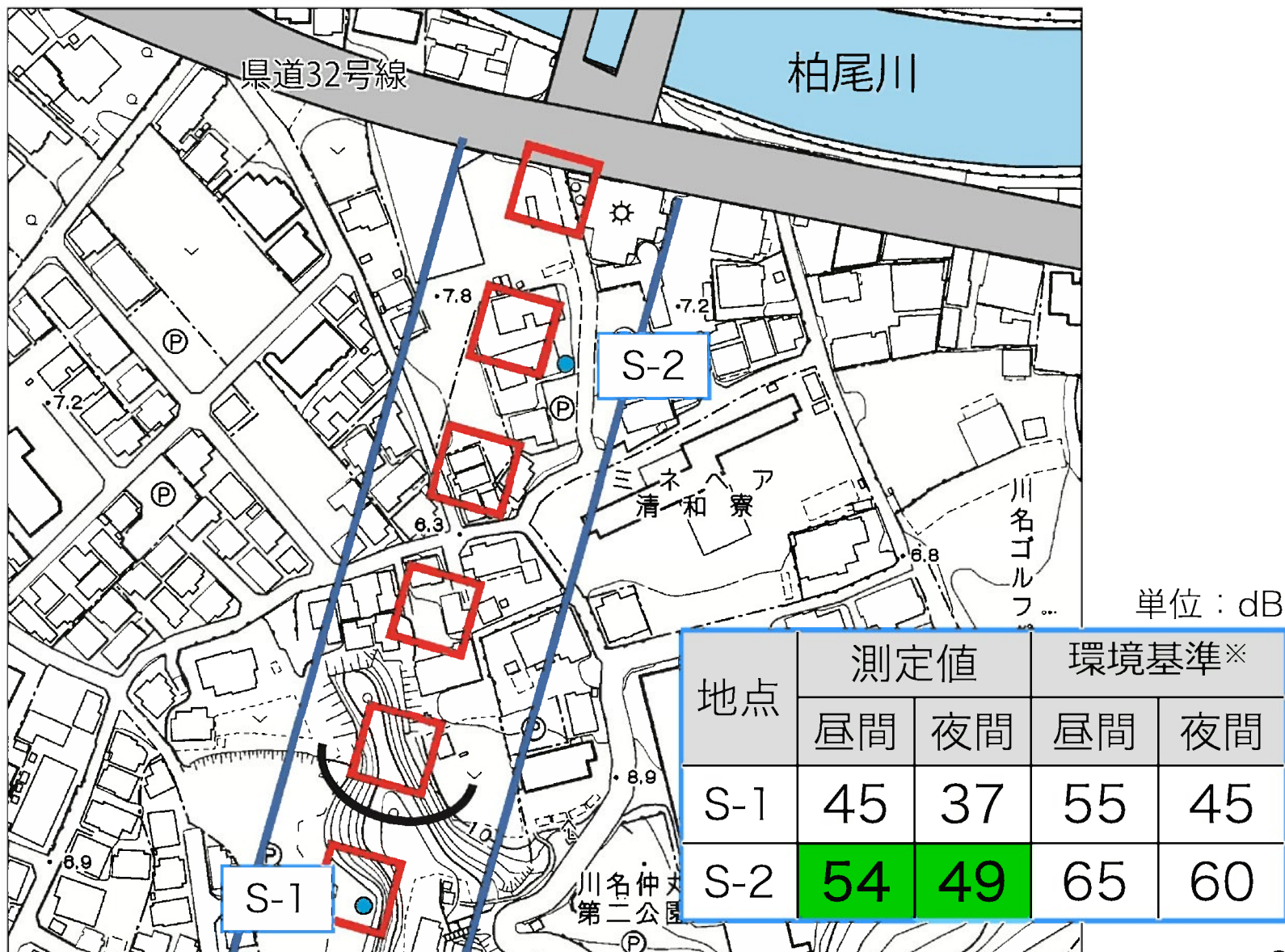
- すべての地点で環境基準※を下回っていました。



※「騒音に係る環境基準」（平成10年9月30日環境庁告示第64号）に基づく環境基準

騒音現地調査結果【川名地区】

- すべての地点で環境基準※を下回っていました。



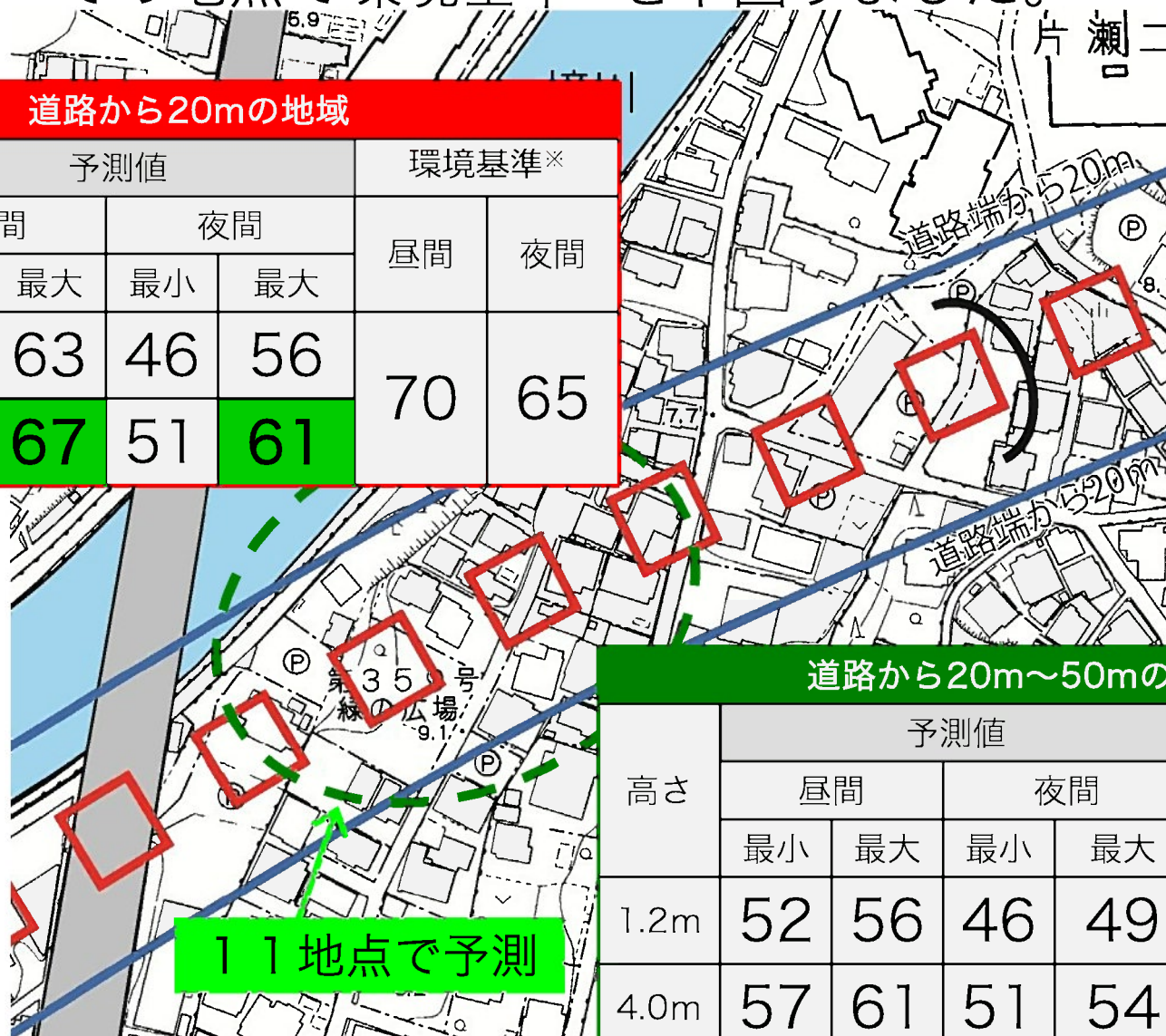
※「騒音に係る環境基準」（平成10年9月30日環境庁告示第64号）に基づく環境基準

騒音予測結果【新屋敷地区】

- すべての地点で環境基準※を下回りました。

単位：dB

道路から20mの地域						
高さ	予測値				環境基準※	
	昼間		夜間		昼間	夜間
	最小	最大	最小	最大		
1.2m	53	63	46	56	70	65
4.0m	57	67	51	61	70	65



単位：dB

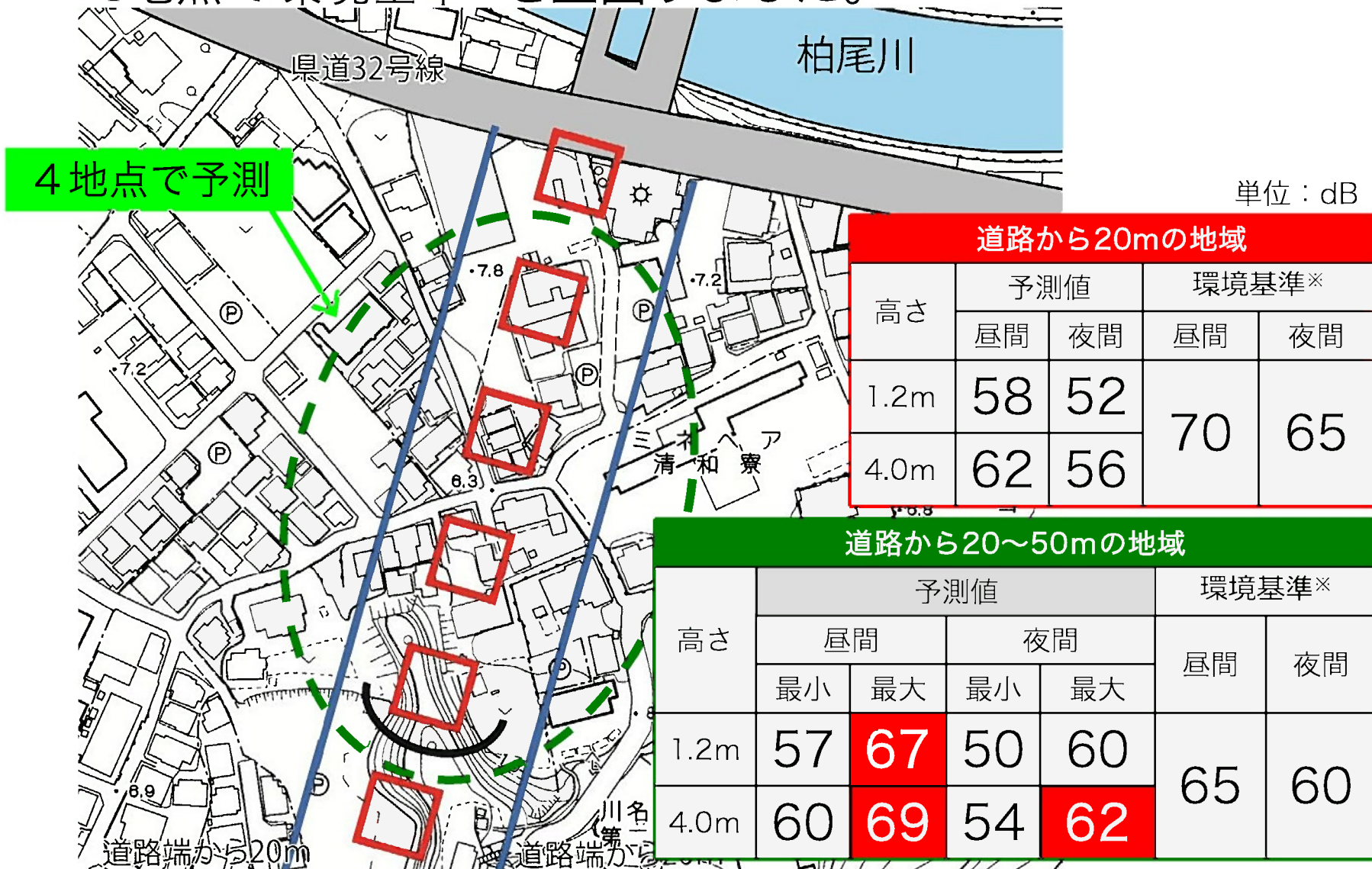
道路から20m～50mの地域						
高さ	予測値				環境基準※	
	昼間		夜間		昼間	夜間
	最小	最大	最小	最大		
1.2m	52	56	46	49	65	60
4.0m	57	61	51	54	65	60

※1「騒音に係る環境基準」（平成10年9月30日環境庁告示第64号）に基づく環境基準

※2 赤の地点には道路端から20mまで、緑の地点には道路端から20m以遠の基準値を用いた。

騒音予測結果【川名地区】

- 1地点で環境基準※を上回りました。



※1「騒音に係る環境基準」(平成10年9月30日環境庁告示第64号)に基づく環境基準

※2 赤の地点には道路端から20mまで、緑の地点には道路端から20m以遠の基準値を用いた。

環境保全措置：遮音壁の設置【川名地区】

- ・ 4.5 mの遮音壁を設置することで、環境基準を下回ります。
- ・ 今後予測条件が変化する可能性があるため、その際に改めて予測及び環境保全措置の検討を行います。

単位：dB

予測高さ	昼間		夜間		遮音壁高さ (高欄含む)
	予測値	環境基準	予測値	環境基準	
1.2m	67(63)	65	60(56)	60	4.5m
4.0m	69(65)		62(58)		

注1) 赤字は無対策時の予測結果を示す。

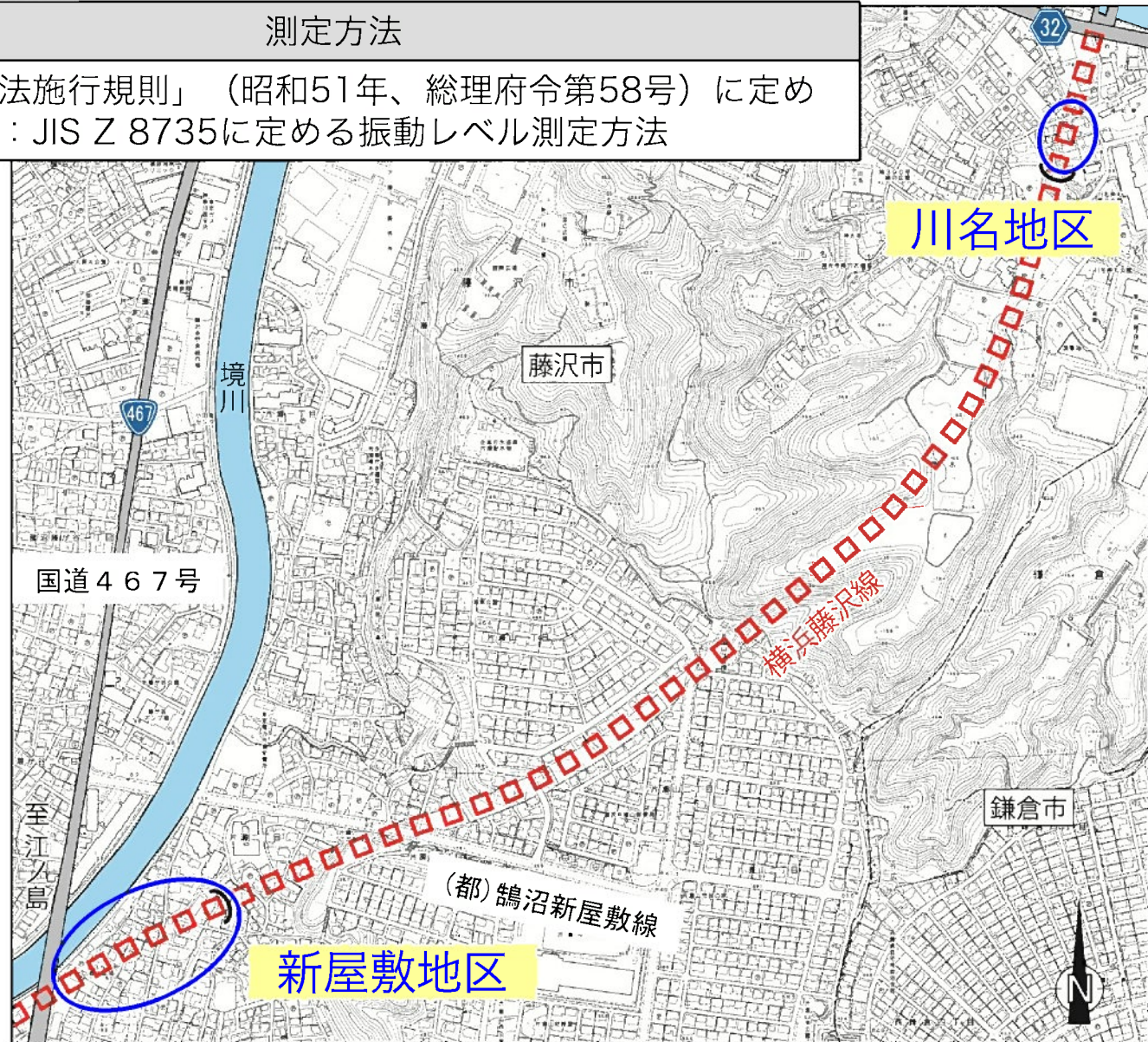
注2) 環境基準は、「騒音に係る環境基準」(平成10年9月30日環境庁告示第64号)に基づく値を設定した。

振動

振動現地調査方法及び位置図

調査項目及び測定方法

調査項目	測定方法
振動レベル	「振動規制法施行規則」(昭和51年、総理府令第58号)に定める測定方法：JIS Z 8735に定める振動レベル測定方法



振動に係る基準値

「振動規制法」（昭和51年11月10日総理府令第58号）に基づいて、「道路交通振動の要請限度」を基準値としました。

区域の区分	基準値	
	昼間	夜間
第1種区域	65dB以下	60dB以下
第2種区域	70dB以下	65dB以下

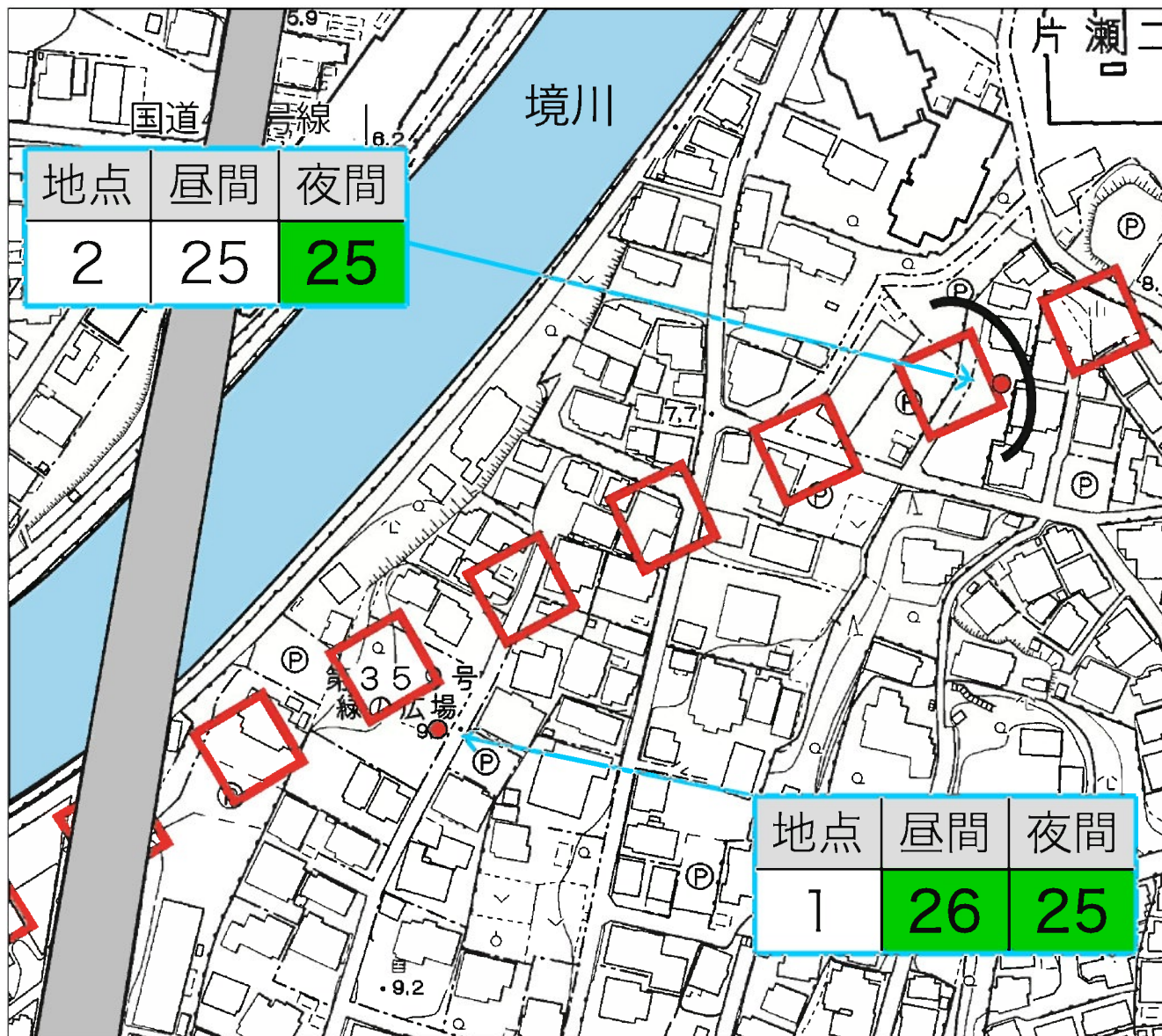
出典：「道路交通振動に係る要請限度」昭和51年11月10日総理府令第58号

区域区分	該当地域
第1種区域	第一種及び第二種低層住居専用地域、及び第二種中高層住居専用地域、第一種及び第二種住居地域、準住居地域、その他の地域
第2種区域	近隣商業地域、商業地域、準工業地域及び工業地域

出典：「神奈川県における類型指定状況」平成11年3月30日神奈川県告示第312号

振動現地調査位置図【新屋敷地区】

- すべての地点で基準値※を下回っていました。

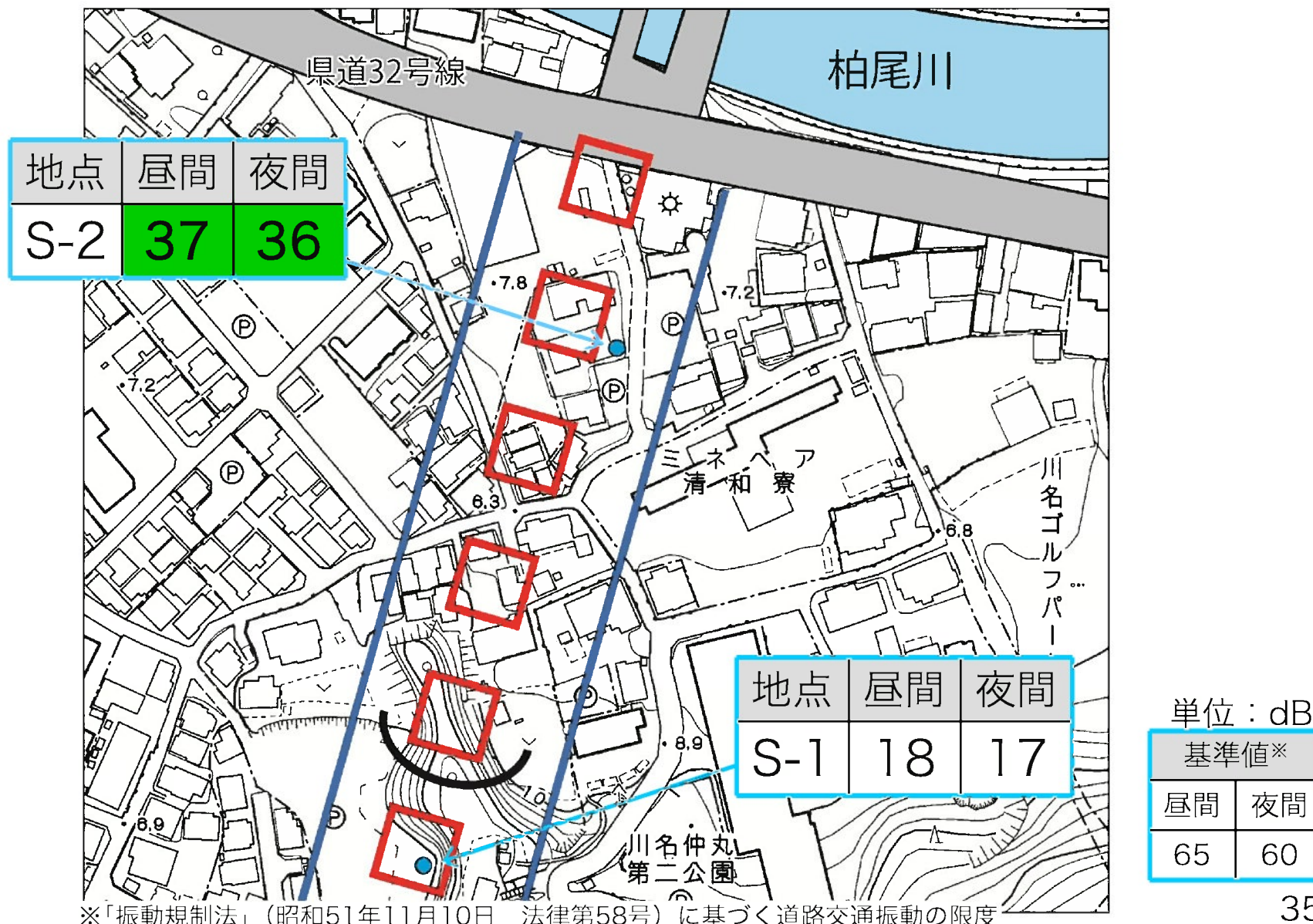


※「振動規制法」(昭和51年11月10日 法律第58号)に基づく道路交通振動の限度

単位：dB

振動現地調査結果【川名地区】

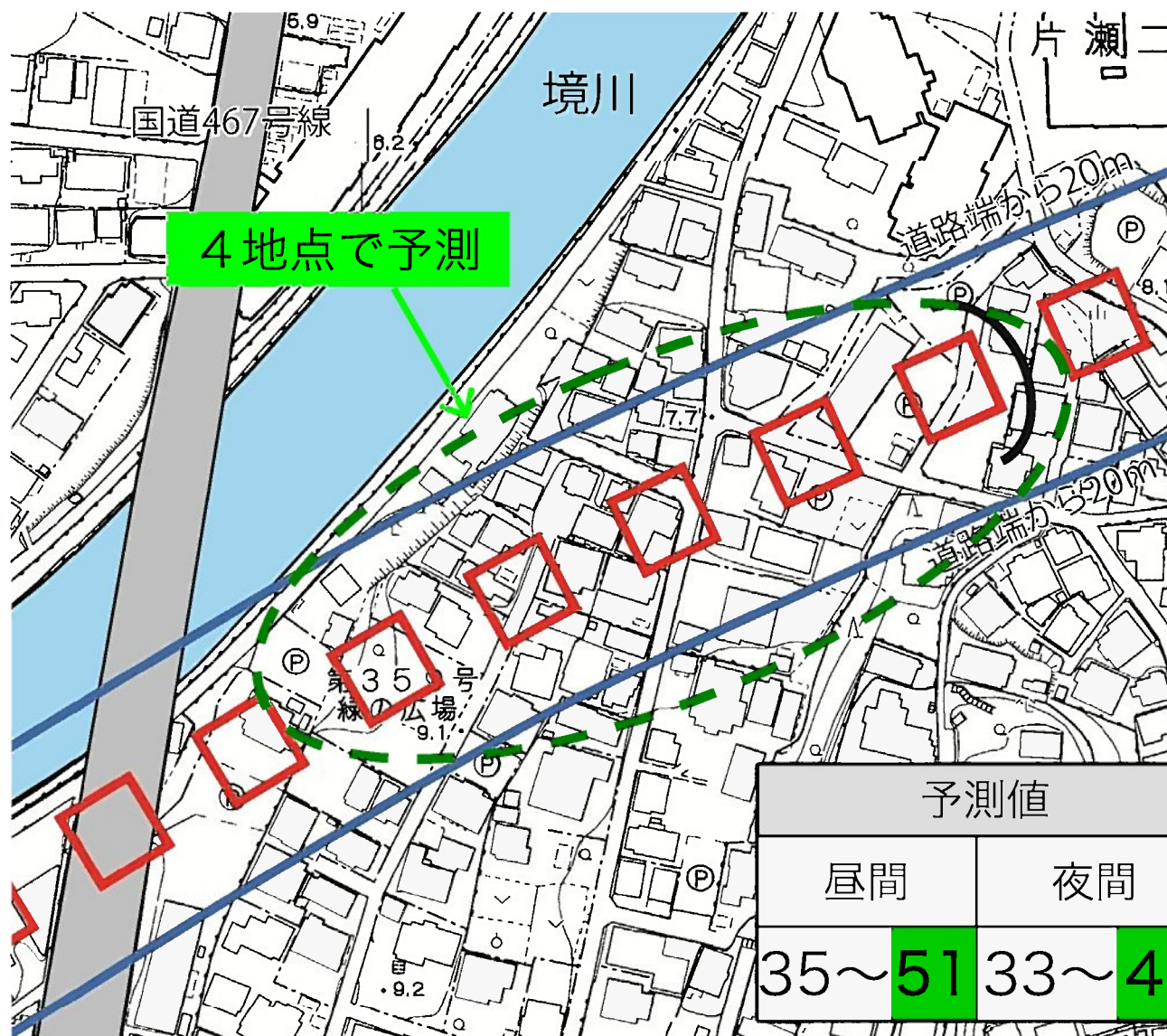
- すべての地点で基準値※を下回っていました。



※「振動規制法」(昭和51年11月10日 法律第58号)に基づく道路交通振動の限度

振動予測結果【新屋敷地区】

- すべての地点で基準値※を下回りました。

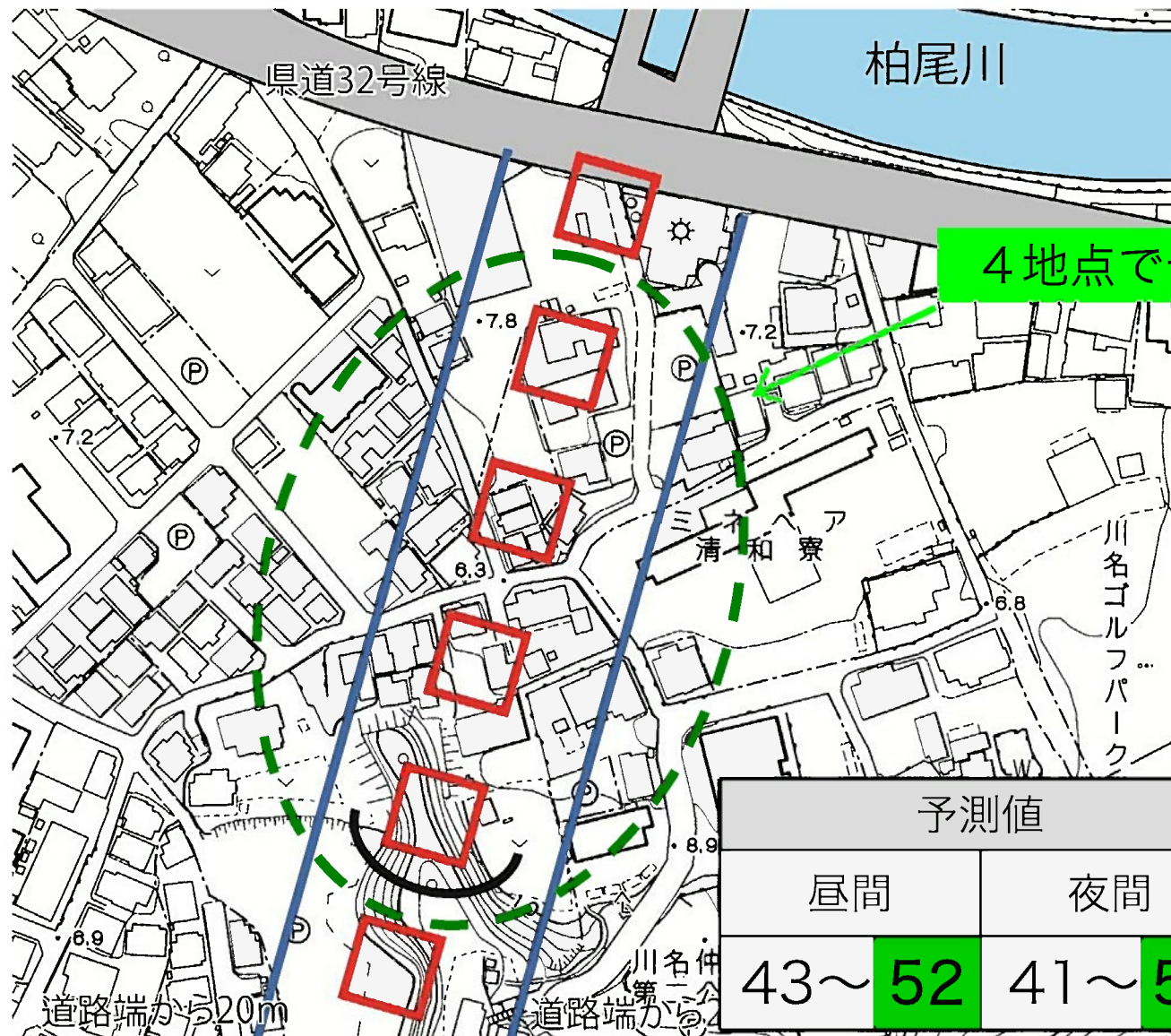


単位：dB

※「振動規制法」(昭和51年11月10日 法律第58号)に基づく道路交通振動の限度

振動予測結果【川名地区】

- すべての地点で基準値※を下回りました。



4地点で予測

単位：dB

予測値		基準値※	
昼間	夜間	昼間	夜間
43～	52	65	60

※「振動規制法」（昭和51年11月10日 法律第58号）に基づく道路交通振動の限度

動物・植物

調査目的及び内容（動物・植物）

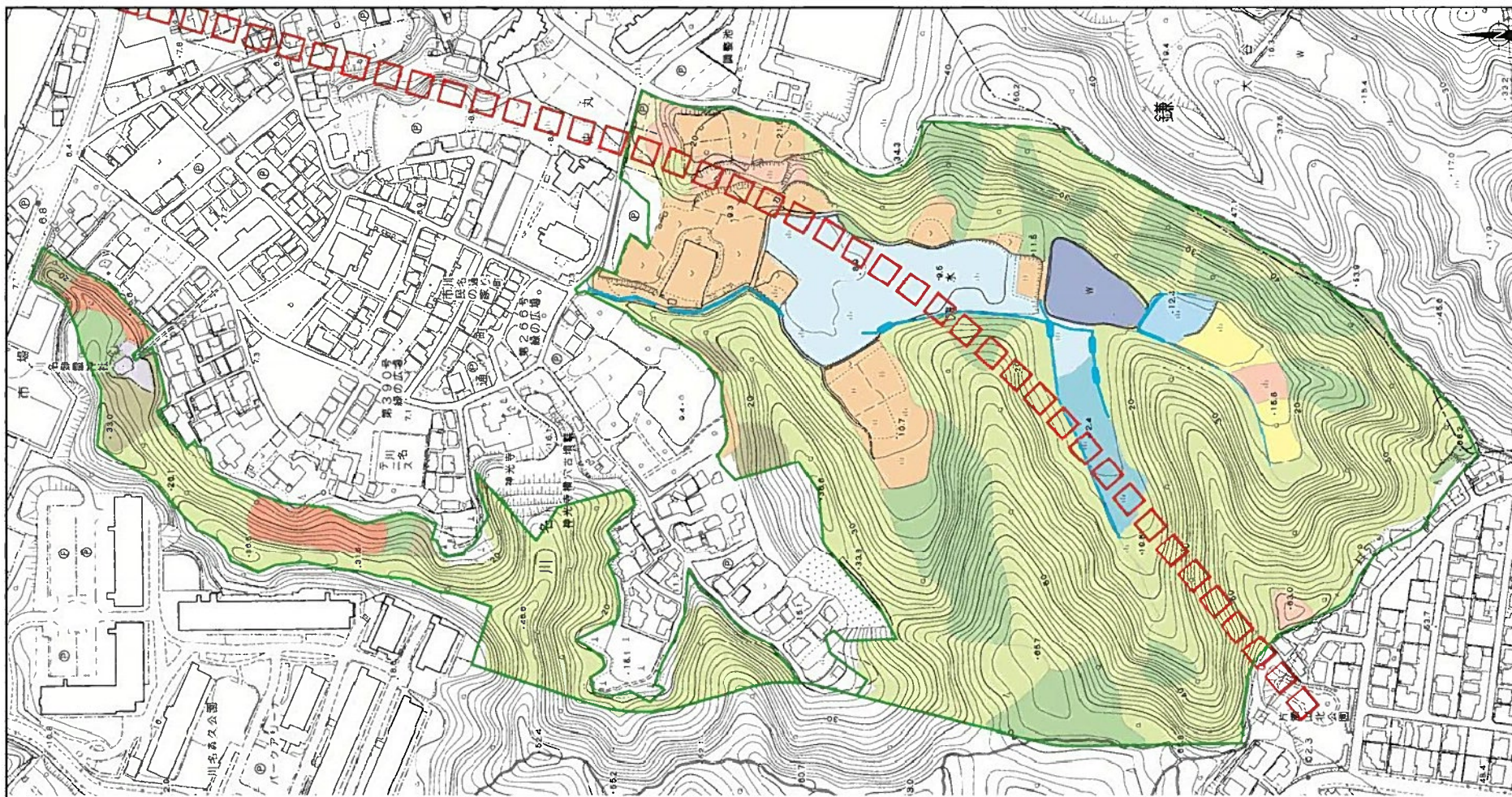
●調査目的

事業影響（工事の実施及び道路の存在）に係る予測・評価を行うための基礎データを収集すること。

●調査内容

- 1.川名緑地及びその周辺において生息・生育する動物・植物を把握すること。
- 2.環境省や神奈川県が選定している重要種の基準に該当する種の生息・生育状況を把握すること。

調査位置（動物・植物）



□□□□	計画路線	スギ・ヒノキ植林	アズマネザサ群落	耕作地
○	緑地事業計画予定地域	スダジイ群落	セリ・ミゾソバ群落	裸地
—	歩道	コナラ群落	オギ群落	市街地
—	水路	ヨシ群落	モウソウチク群落	開放水域

現地調査実施時期（動物・植物）

調査項目		平成23年						平成24年							
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
動物	哺乳類	●	●				●		●				●		
	鳥類	●			●				●				●		
	両生類		●							●	●				
	爬虫類		●			●				●	●				●
	昆虫類	●		●			●						●		
	魚類	●		●			●		●					●	
	底生動物	●		●			●		●				●		
植物	植物相	●		●			●				●				
	植生分布						●								
	植物群落						●								

調査手法（動物・植物）

項目	調査方法
哺乳類	直接観察法、フィールドサイン法、トラップ法、自動撮影法、コウモリ夜間調査
鳥類	ラインセンサス法、定点観察法
両生類 爬虫類	直接観察法
昆虫類	直接観察法、任意採集法、ライトトラップ法、ベイトトラップ法、ホタル類夜間調査
魚類	直接観察法、任意採集
底生動物	直接観察法、任意採集、コドラート法
植物	任意観察法

調査結果概要（１）（動物・植物）

調査項目	確認種数	概要	重要種数
哺乳類	8科8種	関東地方の平野部から丘陵地で一般的に確認される種がみられた。 (アカネズミ、タヌキ等)	—
鳥類	27科35種	森林や林縁で一般的に確認される種がみられた。 (シジュウカラ、ウグイス、メジロ等)	10科10種
両生類 爬虫類	8科11種	関東地方の平野部から丘陵地で一般的に確認される種がみられた。 (アマガエル、ウシガエル等)	5科6種
昆虫類	170科583種	関東地方の平野部から丘陵地で一般的に確認される種がみられた。 (トンボ類、バッタ類、ホタル類、ゾウムシ類、テントウムシ類、チョウ類等)	4科6種

調査結果概要（２）（動物・植物）

調査項目	確認種数	概要	重要種数
魚類	4科6種	流水、止水環境で一般的に確認される種がみられた。 (ブルーギル、オオクチバスなど)	2科3種
底生動物	56科113種	流水、止水環境で一般的に確認される種がみられた。 (ユスリカ類、アメンボ類など)	6科6種
植物	103科323種	関東地方の平野部から丘陵地、里山環境で一般的に確認される種がみられた。 (コナラ、クヌギ、ヨシ、オギなど)	1科1種

予測結果 及び保全措置の検討（1）（動物・植物）

⇒計画路線の大部分はトンネル部であり、工事または道路の存在により改変されないことから、重要な種の生息環境への影響は小さい又は生息環境に変化は生じません。

項目	工事の実施による影響	道路の存在による影響
哺乳類	川名緑地は工事施工ヤードの設置や工事用道路等の設置により改変されない。	主要な生息環境である川名緑地は道路（トンネル式）の存在により改変されない。
鳥類		
両生類		
爬虫類		
昆虫類	川名緑地内に広がる水路やため池は工事施工ヤードの設置や工事用道路等の設置により改変されない。 道路の存在による地下水位等の変化は殆ど生じない。	川名緑地内に広がる水路やため池は道路（トンネル式）の存在により、改変されない。 道路の存在による地下水位等の変化はほとんど生じない。
魚類		
底生動物		

予測結果及び保全措置の検討（2）（動物・植物）

⇒計画路線の大部分はトンネル部であり、工事または道路の存在により改変されないことから、重要な種への影響は小さい又は生育環境に変化は生じません。

項目	工事の実施による影響	道路の存在による影響
植物	川名緑地及び緑地内の水田周辺は工事施工ヤードの設置や工事用道路等の設置により改変されない。 地下水位等の変化はほとんど生じない。	川名緑地及び緑地内の水田周辺は、道路（トンネル式）の存在により改変されない。 地下水位等の変化はほとんど生じない。

- しかしながら、事業の実施段階において、重要な種等への影響があると判断された場合、必要に応じて適切な環境保全措置の実施について検討致します。
- 事業の実施段階及び供用後における動植物の生息・生育環境への影響の有無を確実に把握するために、指標種を設定しモニタリング調査を実施致します。

地下水・表流水・地質

調査目的及び内容（地下水・表流水・地質）

●調査目的及び内容

1. 川名緑地における地下水及び表流水の状況を把握するために、地下水位観測、流量調査を川名緑地及びその周辺（それぞれ5箇所）において実施しました。
2. 川名緑地の地質の状況を把握するため、既存資料調査やボーリング調査を実施しました。

項目	平成23年												平成24年				
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
地下水位																	
流量観測																	

調査結果概要（1）（地下水・表流水・地質）

●地下水

川名緑地における地下水位変動は降雨量に対応しており水位の変動幅は、降水量が多いと大きく、降水量が少ないと小さい傾向を示していました。

●表流水

表流水の流路上流において湧水を確認しましたが、常時流れる湧水は確認されませんでした。

表流水は、降雨に反応して周辺の樹林に保水されている水が湧出していると考えられます。

予測結果及び保全措置の検討（地下水・表流水・地質）

⇒川名緑地内の湿地等の水源は、雨水などが貯留されたものであり、トンネル構造物が湿地等の水源に影響を及ぼす可能性はほとんどないと予測されます。

項目	工事の実施による影響及び道路の供用による影響
地下水	湿地等の水源は、雨水等が貯留されたと考えられる。 また、砂岩泥岩の互層からなる岩盤は、西へ10°程度傾いている緩い傾斜であり、トンネル構造物が緑地内の湿地などの水源に影響を及ぼす可能性はほとんどないと考えられる。

- 地下水等についても、動物・植物と同様にモニタリングを行っていくこととします。

今後の予定

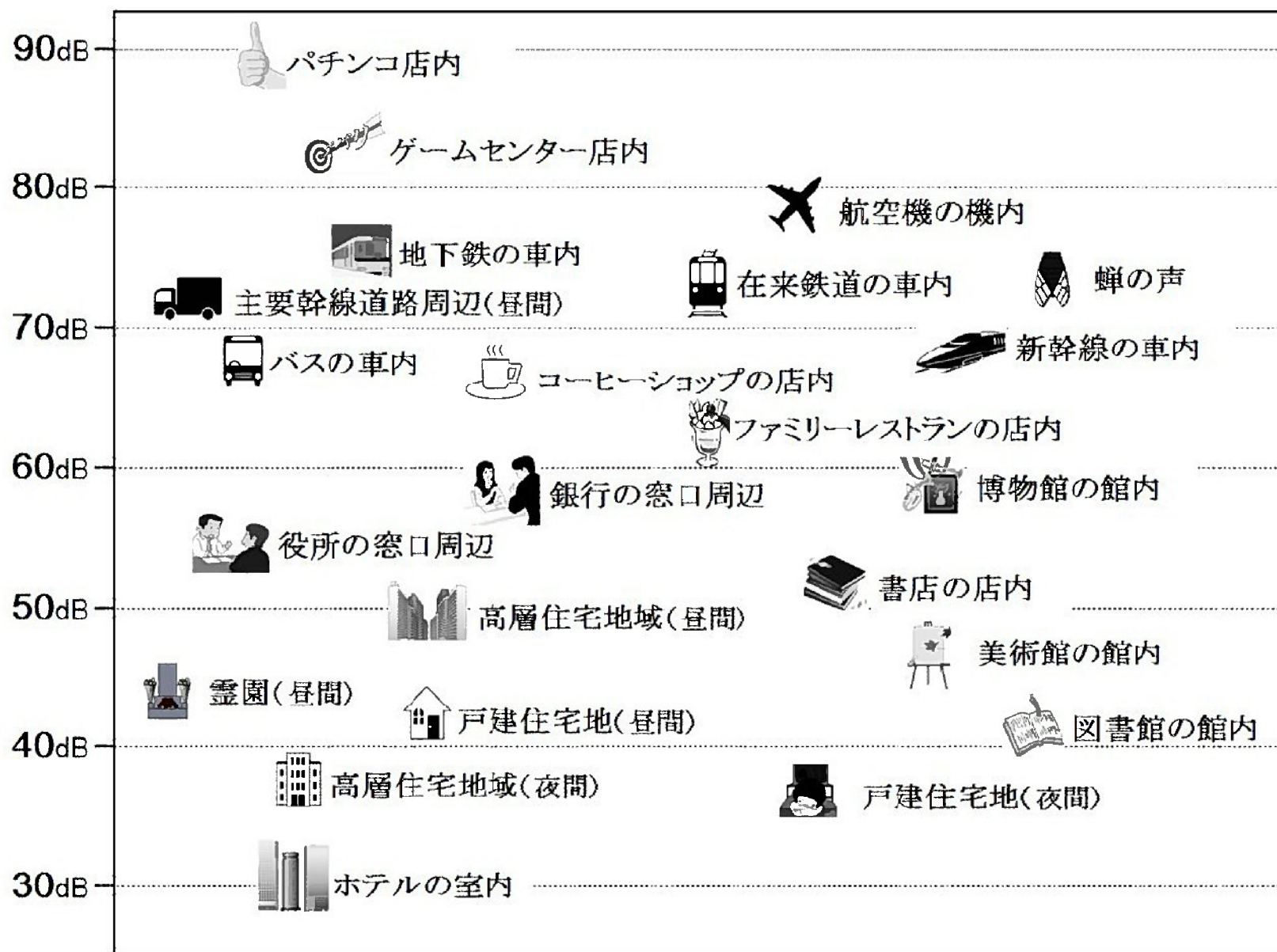
今後の予定

- 具体的なトンネルの位置等を決定するために、道路の詳細設計を行います。
- 都市計画変更の手続きを行います。
- 今後とも、事業への御協力とご理解の程よろしくお願い致します。

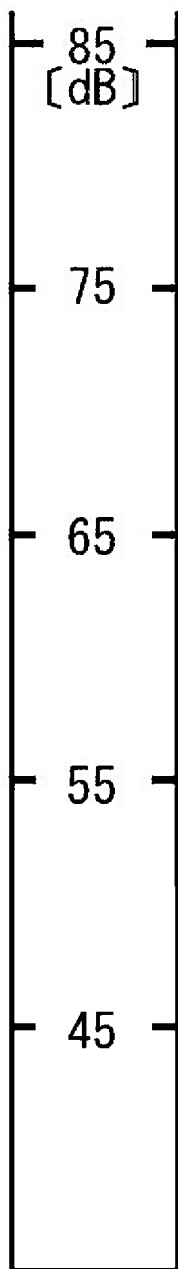
御清聴ありがとうございました。

參考資料

騒音の目安



振動の目安



深い睡眠にも影響がある
戸・障子がガタガタなる



浅い睡眠に影響が出はじめる
戸・障子がわずかに動く

振動を感じはじめる
ほとんど睡眠に影響はない



人体に感じない程度